

在日中国人留学生の勉学・生活における ソーシャルサポートの特徴とその効果

The Characteristics of Social Support of Mainland Chinese Students in Japan and their
Effect on their Study and Daily Life

陳 金娣¹⁾, 高田谷久美子²⁾
CHEN Jindi, TAKATAYA Kumiko

要 旨

目的: 在日中国人留学生が日本での生活, 勉学において, 受け取るソーシャルサポートの特徴を明らかにする。
方法: 対象は日本の大学に在籍している中国人留学生681名である。調査内容は対象の特性, 生活ストレス度, ソーシャルサポートである。

結果: サポートを「得た」と回答した学生が70%を超えた項目数は, 「研究領域」9項目中6項目, 「人間関係領域」6項目中2項目, 「情緒領域」6項目中3項目, 「環境・文化領域」8項目中3項目と「研究領域」でのサポートを最もよく得ていた。

女性, あるいは親友のいる学生がソーシャルサポートを多く得ていた。社会経験がなく, 親友のいない, あるいは日本語能力の低い学生は「研究領域」のサポートを必要と感じていたが得られなかった者が多かった。中国人の友人がいずれの領域においても大きなサポート源となっていた。日本の友人も, 「情緒領域」を除き大きなサポート源となっていた。

なお, 必要と感じて得られたソーシャルサポートの割合と生活ストレスとの間に負の相関がみられ, 留学生は必要なソーシャルサポートが得られることがストレス軽減に役立つことが示唆された。

The purpose of this study is to identify the social support of academic and daily life of Mainland Chinese students studying in Japan.

A questionnaire consisting of categories related to stressors and social support of academic and daily life was given to 681 students.

More than 70% of the students received social support. Out of 9 items of support in the category of academic research, students felt they received support in 6 items. They felt they received support in only 2 out of a possible 6 items of human relationships. With regards to emotion, they felt they received support in 3 out of 6 items. Finally, they acknowledged support in 3 out of 8 items related to environment and culture. The category in which students received the most social support was in academic research.

The female students received more social support than the male students, and the students with close friends received more social support than the students with no close friends.

Most of the students who lacked social experience, close friends and Japanese ability received no social support in their academic research obligations.

Chinese friends were a great source of social support in every category, and with the exception of emotion, Japanese friends were also great source of social support.

There was a significant negative-correlation between the ratios of received support and the amount of stress.

キーワード 中国人留学生, 生活ストレス度, ソーシャルサポート

Key Words Mainland Chinese Students, Stress of Daily Life, Social Support

受理日: 2008年2月21日

1) 山梨大学大学院医学工学総合研究部(高齢者看護):
Interdisciplinary Graduate School of Medicine and
Engineering, University of Yamanashi

2) 山梨大学大学院医学工学総合研究部(母子保健):
International Student Center & Interdisciplinary Graduate
School of Medicine and Engineering, University of
Yamanashi

1. はじめに

在日外国人留学生数は増加の一途をたどっているが, 留学生の支援体制は必ずしも十分とはいえないのが現状である¹⁾。伊藤らによると, 留学生の多くは異文化に適応していく過程で, 「経済」「健康」「言語」「生活」「修学」「人間関係」といった問題に遭遇するという²⁾。著者らは, 留学生の中でも最多である中国人留学生のみを対象とし

て調査し、「学業」「語学力」「対人関係」に関する生活ストレスを経験し、「語学力」「経済」などの生活ストレスに「苦痛や不安」を感じていることを明らかにした³⁾。

在日外国人留学生はこうしたストレスの対処方法として、ソーシャルサポートを求めていることが指摘されている⁴⁾。しかし、その相手としては、「同国の友人」,「家族」,「他国の留学生」,「日本人の友人」,「同文化圏の友人」という順であり、「専門家」(心理学者・精神科医, カウンセラー, 医師)に相談する者はわずか3%と非常に少ない⁴⁾。

また、ストレスとの関連では、在日アジア人留学生において、ソーシャルサポート量が多いほど生活ストレス度は低くなることが報告されている⁵⁾。嶋⁶⁾はソーシャルサポートの持つ効果はストレスの種類、心理的健康状態の種類、および被験者の持つ諸特性(性別や社会経済的地位、社会的能力などのパーソナリティ要因など)によって異なると述べている。しかし、日本の留学生中最多である中国人留学生が日本における生活、勉学で遭遇する生活ストレスに対するソーシャルサポートの効果は未だ明らかにされていない。そこで、本研究では、中国人留学生を対象に日本で受け取るソーシャルサポートの特徴とその効果を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象

調査対象は日本に留学している中国本土出身の留学生である。対象選出にあたり、留学生センターが設置されている国立大学法人54大学(文部科学省平成15年度)、及び「留学生受け入れ主要大学」(文部科学省平成15年度)に掲載されている30校のうち私立大学14校、留学生の多い関東地方と関西地方からそれぞれ5校と4校、大学の留学生担当課一覧表(文部科学省平成15年)から12校間隔で抽出した23校、Y県で留学生の多い大学2校を入れ、合計102校に調査協力の依頼をし、協力の得られた24校中22校(1校は自然災害、1校は期日までに回答がなかったため分析対象とはならなかった)に在籍している大学生または大学院生681人である。

2. 調査項目

1) 属性

基本的属性として、性別、年齢、婚姻状況、社会人経験の有無、住居の形態、日本で家族同居の有無、親友の有無、日本語能力、滞日期間、現大学に進学した動機、大学での身分、専攻分野、留学資金、アルバイトの有無の14項目とした。

2) 生活ストレス度

宗像ら⁷⁾の「日常苛立ち事尺度」の項目および朝倉⁸⁾、

江川⁸⁾の研究を参考にし、中国人留学生と関係のある項目を付け加え、日常生活・日本語能力・勉学・人間関係など生活ストレスに関する質問20項目とした。経験した生活ストレス項目に対して、「苦痛や不安を感じなかった」(0点)～「非常に感じた」(3点)で得点付けし、各項目の得点を合計して生活ストレス度とし、ストレスを強く感じているほど高得点になるようにした。

3) ソーシャルサポート

周⁹⁾の「在日中国系留学生用ソーシャルサポート尺度」の中国語版を使用した。この尺度は、生活領域(場面)に関わるものとして、研究、人間関係、情緒、環境・文化の4領域、及びソーシャルサポートのタイプとして、物質的、心理的、指導的、情動的の4つのタイプをとりあげ、2次元的に構成されている。この尺度の使用方法には3通りあるが、本研究では、そのうちの一つである領域別のみに注目するやり方を取り、29項目それぞれについて、「必要と感じて得た」、「必要と感じたが得られなかった」、「必要と感じなかった」の中から一つを選択することとした。また、得た場合に、その送り手であるサポート源としては、日本で留学しているという状況を考え、「家族」,「中国人の友人」,「日本人の友人」,「他の国の友人」,「指導(授業)教員」,「その他の大学教員」,「大学の職員」,「保健管理センターの職員」,「留学生担当の職員」の9つをあげ、複数回答とした。

3. データ分析

統計解析ソフト JMP in5.0.1J を用いて行なった。ソーシャルサポートの各項目の度数、平均値を算出し、基本属性によるソーシャルサポートの相違はt検定、一元配置分散分析及びTukey法を用いて行なった。ソーシャルサポートと生活ストレス度の関係をピアソンの積率相関係数を用いて検討した。

4. 調査期間 平成16年9月～11月

5. 倫理的配慮 本研究は、山梨大学医学部倫理委員会において審査を受け承認された。

III. 結果

1. 基本属性

対象とした留学生の基本属性を表1に示した。平均年齢は27.1±4.9歳、男性359名(52.8%)、女性321名(47.1%)であった。

2. 生活ストレス度

生活ストレス20項目中、経験したことがあると回答した者が少なかったのは、「大家や近隣との衝突」と「他の

表1 対象者の基本属性 (n=681)

		n	M±SD
平均年齢		677	27.1±4.9
	無回答	4	
日本語能力		681	5.4±2.1
			%
性別	男	359	52.8
	女	321	47.1
	無回答	1	0.1
婚姻	既婚	232	34.1
	未婚	447	65.7
	離婚	1	0.1
	無回答	1	0.1
社会経験	あり	361	53.1
	なし	319	46.8
	無回答	1	0.1
住居状態	学生寮	107	15.7
	留学生会館	101	14.9
	民間住宅	359	52.7
	自治体団地	84	12.3
	その他	30	4.4
同居者	いる	179	26.3
	いない	502	73.7
親友	いる	381	55.9
	いない	291	42.7
	無回答	9	1.4
日本語能力 (3~12点)	高い(3~5点)	304	44.6
	一般(6~8点)	300	44.1
	低い(9~12点)	77	11.3
アルバイト	している	468	68.7
	していない	201	29.5
	無回答	12	1.8
進学動機	学びたい専攻あり	423	62.1
	入りたい大学に不合格	46	6.8
	授業料が他校より安い	73	10.7
	その他	132	19.4
	無回答	7	1.0
奨学金	奨学金	120	17.6
	私費	380	55.8
	奨学金+私費	171	25.1
	無回答	10	1.5
専攻	文系	368	54.0
	理系	291	42.7
	無回答	22	3.3
大学での身分	学部生	299	43.9
	修士	165	24.3
	博士	180	26.4
	研究生	20	2.9
	聴講生	4	0.6
	無回答	13	1.9
	滞日年数	1年以内	100
	1~2年以内	160	23.5
	2~3年以内	162	23.8
	3~4年以内	155	22.8
	4年~	101	14.8
	無回答	3	0.4

国の留学生とのトラブル」で、あとはいずれも60%を超えていた(表2)。これら経験したストレス中、苦痛や不安に感じた程度により得点化して算出した生活ストレス度は16.15±9.15であった。

3. ソーシャルサポートに対する認識

「得た」と回答した学生が70%を超えた項目数は、「研究領域」9項目中6項目、「人間関係領域」6項目中2項目、「情緒領域」6項目中3項目、「環境・文化領域」8項目中3項目と「研究領域」でのサポートが最もよく得られていた(表3)。

「必要と感じなかった」と回答した留学生の割合が最も多かった項目は、「人間関係領域」の「他の人の行動…などの情報を提供してくれる(38.3%)」、次いで「環境・文化領域」の「買い物などが必要…手伝ったりしてくれる(31.9%)」及び「研究領域」の「学校を休んだときなど、授業の進み具合…情報を提供(31.5%)」であった。

「必要と感じたが得られなかった」と回答した学生の割合が最も多かった項目は、「研究領域」の「授業の内容が分からないことの説明(15.7%)」、次いで「環境・文化領域」の「日常生活の中で間違った日本語の訂正(15.6%)」、「情緒領域」の「寂しいときに一緒にいてくれる(14.5%)」であった。

領域別に主なサポート源(複数回答)をみると(表4)、いずれの領域においても中国人の友人が最も多く、「情緒領域」を除いて日本の友人も大きなサポート源となって

表2 生活ストレスを経験した学生の割合と

その経験したストレスのストレス得点 (n=681)

生活ストレス項目	経験した留学生数	%	ストレス得点
日本語能力の不足	597	87.7	1.37±0.93
日本語が上手にならない	503	73.9	1.02±0.94
住宅を探すこと	493	72.4	0.65±0.83
大家や近隣との衝突	253	37.2	0.21±0.58
アルバイト探し	552	81.1	1.00±0.95
経済的負担	523	76.8	1.06±1.01
入国管理局への手続き	496	72.9	0.33±0.62
生活が不規則	568	83.4	1.05±0.97
孤独感・寂しい	570	83.7	1.07±0.99
進学や入学試験	600	88.1	0.96±0.90
授業やセミナーの内容理解	590	86.6	1.04±0.89
論文の作成や研究	605	88.8	1.12±0.87
学習・研究の指導に不満足	523	76.8	0.89±0.92
日本人学生との人間関係	586	86.1	0.62±0.77
他の国の留学生とのトラブル	331	48.6	0.20±0.53
人種差別・偏見をされること	450	66.1	0.59±0.79
家族の期待に負担感	537	78.9	0.75±0.87
将来への不安	507	74.5	0.85±0.89
自分の健康問題	465	68.3	0.70±0.86
家族の健康問題	418	61.4	0.70±0.90
合計(平均値)			16.15±9.15

表3 ソーシャルサポートに対する認識

(n=681)

	必要ない	得られなかった	得た	
研究領域	研究や勉強のための道具(本, ノート, コンピュータ, ワークプロなど)を貸してくれる	177 (26.0)	70 (10.3)	434 (63.7)
	研究や勉強のための資料検索などを手伝ってくれる	141 (20.7)	58 (8.5)	482 (70.8)
	研究や発表や試験がストレスになるときに, 相談に乗ってくれる	130 (19.1)	52 (7.6)	499 (73.3)
	研究や勉強や試験の悩みを理解し, 励ましてくれる	92 (13.5)	50 (7.3)	539 (79.2)
	私の研究能力や努力を認め, 肯定的に評価してくれる	107 (15.7)	62 (9.1)	512 (75.2)
	研究や勉強の内容(レジュメ, 研究計画, 論文の作成など)や進み方について, 指導してくれる	81 (11.9)	64 (9.4)	536 (78.7)
	授業の内容が分からないことを易しく説明してくれる	142 (20.9)	107 (15.7)	432 (63.4)
	試験, レポート研究についての情報を提供したり, 体験を話したりしてくれる	114 (16.7)	83 (12.2)	484 (71.1)
	学校を休んだときなど, 授業の進み具合や宿題などについての情報を提供してくれたり, 連絡をしてくれる	214 (31.5)	64 (9.4)	403 (59.2)
人間関係領域	みなと付き合ったり, 話し合ったりするきっかけや場所をつくってくれる	130 (19.1)	72 (10.6)	479 (70.3)
	他の人の行動や態度に感じた不満について, 相談にのったりしてくれる	194 (28.5)	70 (10.3)	417 (61.2)
	仲間(集団や研究室や友人)の一員として受け入れて, 自分に関心を示してくれる	97 (14.2)	69 (10.1)	515 (75.6)
	みなと付き合ううえでのトラブルや誤解があるときに, 私の立場や悩みを理解したり, 相談にのってくれる	202 (29.7)	60 (8.8)	419 (61.5)
	人と付き合う場合の行動や態度について指導し, 助言してくれる	167 (24.5)	45 (6.6)	469 (68.9)
	他の人の行動, 態度, 趣味, 好みなどの情報を提供してくれる	261 (38.3)	53 (7.8)	367 (53.9)
情緒領域	落ち込んだり, 悩んだり, イライラしたり, 寂しいときに, 食事や外出に誘ってくれる	131 (19.3)	87 (12.8)	463 (68.0)
	落ち込んだり, 悩んだり, イライラするときに, 相談に乗ってくれたり, 話を聞いてくれる	104 (15.3)	65 (9.6)	512 (75.2)
	寂しいときに, 一緒にいてくれる	129 (18.9)	99 (14.5)	453 (66.5)
	挫折感を覚えるときや悲しいときなどに慰めてくれる	110 (16.2)	65 (9.6)	506 (74.3)
	悩んでいるときに, 助言してくれる	149 (21.9)	88 (12.9)	443 (65.1)
	悩みを解決するための良い方法を教えてくれる	99 (14.5)	59 (8.7)	523 (76.8)
環境・文化領域	手持ちのお金がなくなったときに, 貸してくれる	202 (29.7)	59 (8.2)	423 (62.1)
	買い物などが必要なときに, 連れて行ったり, 手伝ったりしてくれる	217 (31.9)	51 (7.5)	413 (60.7)
	生活用品などを貸してくれたり, 譲ってくれる	195 (28.6)	30 (4.4)	455 (66.8)
	日本の文化風習や慣習・生活などについてのことや悩みを話し合って, 理解してくれる	177 (25.6)	50 (7.3)	454 (66.7)
	価値観の違う時に, 話し合ったり理解したりしてくれる	193 (29.1)	77 (11.3)	405 (59.5)
	日常生活の中で間違った日本語を直してくれる	73 (10.7)	106 (15.6)	502 (73.7)
	留学生に関するアルバイト, 奨学金, 活動などの情報を提供してくれる	88 (12.9)	66 (9.7)	527 (77.4)
	日常生活(衣・食・住など)で, わからないことや様々な情報を教えてくれる	121 (17.8)	49 (7.2)	511 (75.0)

注) ()内の数字は割合を示す

いた。

たが得られなかった者が多かった。

4. 基本属性とソーシャルサポートとの関係

「得た」サポートの量は, 領域に関わりなく, 女性の方が男性よりも, また親友のいる学生の方がいない学生よりも有意に多く得ていた(表5)。

社会経験がなく, 親友のいない, あるいは日本語能力の低い学生は「研究領域」のサポートを必要と感じてい

5. ソーシャルサポートと生活ストレス度との関連

ソーシャルサポート29項目の中で, 必要と感じたサポートに対し「得た」サポートが占めた割合を領域別に算出し, 生活ストレス度との関連を検定した結果, 4領域においていずれも有意な負の相関がみられた(表6)。

表4 領域別ソーシャルサポート源

(n=681) (複数回答)

領域/サポート源	研究領域		人間関係領域		情緒領域		環境・文化領域	
	n	%	n	%	n	%	n	%
家族	326	47.9	296	43.5	334	49.1	253	37.2
中国の友人	531	78.0	520	76.4	491	72.1	560	82.2
日本の友人	411	60.4	361	53.0	224	32.9	455	66.8
他国からの友人	144	21.1	137	20.1	88	12.9	120	17.6
指導(授業)教官	479	70.3	233	34.2	74	10.9	234	34.4
他の大学教官	178	26.1	83	12.2	32	4.7	119	17.5
大学の職員	117	17.2	83	12.2	16	2.4	106	15.6
保健医療専門職	19	2.8	10	1.5	6	0.9	15	2.2
大学の留学生関係者	125	18.4	154	22.6	23	3.4	166	24.4

IV. 考察

中国人留学生の7割前後はいずれの領域のサポートも得ていた。なかでも、「研究や勉強や試験の悩みを理解し、励ましてくれる」、「留学生に関するアルバイト、奨学金、活動などの情報を提供してくれる」など、「研究領域」、「環境・文化領域」に属し、本来の学業や現実生活に関するサポートについて、8割近くの学生が得ていた。周¹⁰⁾は、中国系留学生在が「研究領域」のサポートをより多く求め、より多く得られていると指摘しており、本研究においても類似した結果が得られた。また、女性は男性よりいずれの領域でのサポートも多く得ていた。このような傾向は、欧米¹¹⁾、日本¹²⁾、中国¹³⁾での研究にも見出されている。嶋¹²⁾はこのような性差が生じる背景には、男子には、困難な問題に遭遇した場合でも、他者からの援助を受けずに独力でそれを解決することが期待されがちであるという社会的・文化的要因があるためと述べている。また、李¹³⁾は男子大学生は自負心が強く、他人の援助を受けることに抵抗があり、ソーシャルサポートの利用を軽く思いがちといった、伝統的な価値観や性役割も関係しているであろうと指摘している。

反対に、中国人留学生の2割前後はいずれの領域のサポートも必要と感じていなかった。なかでも、「他の人の行動、態度、趣味、好みなどの情報を提供してくれる」、「買い物などが必要ときに、連れて行ったり、手伝ったりしてくれる」など、個人やプライバシーに関係するもののサポートについて、4割近くの学生が必要と感じていなかった。高井¹⁴⁾は日本人の人間関係は複雑で理解し難く、日本人の外国人に対する態度も閉鎖的で消極的であり、特にアジア人には差別的な態度を示すので、アジア出身の留学生は対人関係上の適応に悩まされていることを指摘している。また、前述した周¹⁰⁾の調査では、中国系留学生在が「情緒領域」のサポートをあまり求めておらず、得られるとも思っていない、あまり受け取っていないとしている。さらに、中国系留学生を含め、アジア地域の留学生に対する日本人の態度が非友好的なため、留

学生は、日本人との親密で友好的な人間関係の形成やサポート関係の形成にあきらめてしまうのではないかと¹⁵⁾との指摘もある。本調査の対象者の約半数は社会経験もないため、人間関係を築くことを重要視していない可能性もあると推測される。また、本調査は周の調査よりもおよそ10年後のことであり、この間留学生の数も激増し、日本社会における外国人に対する態度の変化や在日中国人のネットワークが築き上がってきたことなどが影響しているのではないだろうか。このことは、「情緒領域」の主なサポート源が中国人の友人、家族となっていることによっても裏付けられる。

一方、中国人留学生の1割前後はいずれの領域のサポートも必要と感じたが得られなかったとしていた。なかでも、「授業の内容が分からないことを易しく説明してくれる」、「日常生活の中で間違った日本語を直してくれる」では2割近くの学生が得られなかった。その理由として、「日常生活の中で間違った日本語…」については、中国人は、間違っていることは間違っていると明確な話し方をするが、日本人は遠慮がちな話し方をしているといった文化差によるのではないだろうか。しかし、これらは「学業」、「生活」に属するサポートであり、援助の必要性があると考えられる。

また、本研究において住宅形態とソーシャルサポートに関連がみられ、「民間賃貸住宅」に住んでいる学生は「学生寮・留学生会館」に住んでいる学生より、「情緒領域」、「環境・文化領域」のサポートを多く得ており、逆に「研究領域」・「環境・文化領域」のサポートを「必要と感じたが得られなかった」者が多かった。このことは、文部省と各地の国立法人大学が留学生の受け入れ対策として建設した「留学生会館」や学生寮の分離主義¹⁶⁾の住居形態は、留学生に「日本人との交流ができない」¹⁷⁾と感じさせており、そのことが影響していると考えられる。

一方、横田¹⁷⁾は、「居住形態が友人関係の構成に影響する大きな要因である」と述べ、また、「アパート生は他の大きな集合住宅のように、いやおうなしに他人と接触す

表5 得たソーシャルサポート、及び得られなかったソーシャルサポートの量と基本属性との関係 (n=681)

研究領域	人間関係領域				情緒領域				環境・文化領域									
	得た		得られなかった		得た		得られなかった		得た		得られなかった							
	Mean±SD	t値/F値	Mean±SD	t値/F値	Mean±SD	t値/F値	Mean±SD	t値/F値	Mean±SD	t値/F値	Mean±SD	t値/F値						
性別	n																	
男	359	6.09±3.69	11.53**	0.93±1.64	0.50	4.01±3.46	18.31**	0.59±1.28	1.09	2.63±2.11	48.21**	0.82±1.61	2.66**	4.11±3.06	20.47**	0.64±1.51	1.20	
女	321	7.08±3.92		0.86±1.73		5.22±3.90		0.49±1.15		3.88±2.51		0.53±1.24		5.22±3.32		0.64±1.42		
年齢																		
18~25歳	294	6.27±3.76	1.6	0.97±1.95	0.48	4.27±3.45	2.06	0.57±1.33	0.19	3.18±2.38	0.14	0.68±1.46	0.77	4.43±3.11	1.15	0.76±1.67	0.43	
26~35歳	337	6.75±3.85		0.83±1.42		4.71±3.87		0.52±1.01		3.25±2.37		0.65±1.40		4.73±3.29		0.70±1.32		
36歳以上	46	7.01±4.07		0.89±1.62		5.26±3.74		0.59±1.45		3.08±2.33		0.93±0.22		5.07±3.36		0.54±1.19		
結婚																		
既婚	232	6.84±4.09	1.76	0.87±1.56	0.12	5.02±3.96	4.51*	0.54±1.18	0.00	3.06±2.21	1.9	0.71±1.47	0.2	4.82±3.37	1.14	0.71±1.39	0.00	
未婚	447	6.42±3.69		0.91±1.74		4.36±3.57		0.54±1.24		3.31±2.47		0.66±1.44		4.54±3.16		0.71±1.51		
離婚	1	8.00		0.00		2.00		2.00		2.00		4.00		7.00		1.00		
社会経験																		
あり	361	6.68±3.88	0.76	0.77±1.47	2.02*	4.72±3.75	1.11	0.49±1.18	1.12	3.21±2.34	0.03	0.69±1.51	0.17	4.83±3.30	2.75	0.68±1.41	0.7	
なし	319	6.42±3.78		1.04±1.89		4.42±3.67		0.60±1.28		3.24±2.44		0.67±1.39		4.42±3.15		0.76±1.53		
住居																		
学生寮・留学生会館	208	6.09±3.68	2.34	1.18±2.01	3.29*	4.19±3.85	1.99	0.67±1.42	1.67	2.85±2.29	3.99*	0.85±1.68	2.07	4.09±2.97	4.81**	0.97±1.65	4.67**	
都・道・府・県営住宅	84	7.00±3.59		0.71±1.42		5.04±3.30		0.55±1.26		3.27±2.14		0.62±1.33		4.59±2.96		0.74±1.56		
民間住宅	359	6.65±3.99		0.80±1.53		4.69±3.77		0.47±1.09		3.43±2.47		0.57±1.30		4.95±3.46		0.57±1.34		
その他	30	7.07±2.08		0.67±1.32		4.03±1.83		0.53±1.01		3.80±2.48		1.00±1.74		5.83±1.86		0.53±1.07		
同居者あり	179	6.90±4.22	0.95	0.83±1.53	0.29	5.19±4.12	2.85	0.55±1.15	0.02	3.24±2.27	1.76	0.53±1.25	2.63	4.87±3.54	0.56	0.72±1.48	0.67	
単身	71	6.60±3.70		0.99±1.68		4.32±3.58		0.56±1.30		2.74±2.27		1.03±1.72		4.61±2.87		0.58±0.97		
独身	431	6.41±3.68		0.91±1.74		4.37±3.53		0.54±1.24		3.29±2.44		0.68±1.48		4.54±3.15		0.73±1.53		
誕生日数																		
1年以内	100	6.82±4.03	0.83	0.84±1.89	0.82	4.79±3.71	1.58	0.62±1.46	0.19	2.94±2.31	3.39**	0.73±1.52	0.37	4.59±3.47	0.9	0.84±1.67	0.65	
1~2年以内	160	6.25±3.40		0.80±1.54		4.13±3.29		0.55±1.16		2.80±2.14		0.74±1.59		4.28±2.84		0.69±1.54		
2~3年以内	162	6.61±3.97		0.98±1.68		4.48±3.86		0.54±1.20		3.17±2.26		0.57±1.35		4.67±3.23		0.61±1.13		
3~4年以内	155	6.39±4.00		1.06±1.85		4.59±3.83		0.55±1.20		3.53±2.51		0.70±1.41		4.91±3.45		0.66±1.39		
4年以上	101	7.00±3.86		0.75±1.39		5.25±3.94		0.47±1.13		3.74±2.72		0.70±1.44		4.79±3.28		0.86±1.73		
親友の有無																		
あり	381	7.17±4.07	23.49**	1.04±1.73	2.14*	5.19±3.89	24.71**	0.59±1.24	0.85	3.52±2.56	12.87**	0.75±1.56	1.34	5.08±3.39	17.02**	0.82±1.58	1.76	
なし	291	5.78±3.34		0.77±1.60		3.81±3.31		0.50±1.18		2.87±2.10		0.60±1.32		4.08±2.90		0.62±1.35		
日本語能力																		
高い(3~5点)	304	6.92±3.78	2.49	0.73±1.44	3.16*	4.46±3.62	1.47	0.46±1.07	1.44	3.61±2.59	10.33**	0.56±1.23	4.85**	5.06±3.26	6.22**	0.53±1.25	5.01**	
一般(6~8点)	300	6.22±3.98		1.07±1.88		4.81±3.89		0.58±1.30		3.03±2.17		0.69±1.40		4.39±3.26		0.81±1.55		
低い(9~12点)	77	6.45±3.29		0.88±1.68		4.11±3.29		0.70±1.42		2.42±2.03		1.13±2.07		3.89±2.75		1.05±1.82		
アルバイト																		
している	471	6.87±4.31	1.63	0.76±1.42	1.40	4.51±3.55	0.58	0.47±1.08	1.08	3.33±2.37	3.13	0.71±1.42	0.37	4.60±2.99	0.16	0.68±1.35	0.33	
していない	208	6.44±3.59		0.94±1.76		4.76±4.08		0.57±1.27		2.97±2.41		0.66±1.47		4.72±3.73		0.72±1.52		
進学動機																		
学びたい・専攻がある	423	6.76±3.91	2.44	0.85±1.60	0.62	4.65±3.88	1.08	0.51±1.16	0.83	3.22±2.48	1.15	0.59±1.32	1.49	4.74±3.31	1.73	0.59±1.21	2.39	
入りたい大学に不合格	46	5.70±3.94		1.23±1.87		4.09±3.54		0.83±1.50		2.80±1.83		0.93±1.67		3.77±3.40		1.22±2.19		
今の大学の授業料が高い	73	5.69±3.34		1.00±1.89		4.06±3.48		0.67±1.38		3.07±2.25		0.78±1.62		4.22±2.90		0.90±1.87		
その他	132	6.67±3.79		0.89±1.78		4.82±3.38		0.48±1.21		3.40±2.34		0.84±1.68		4.80±3.06		0.85±1.64		
留学資金																		
奨学金	120	6.56±3.63	1.34	0.83±1.37	1.75	4.56±3.61	1.05	0.51±1.10	2.18	3.24±2.44	1.67	0.63±1.35	0.67	4.71±3.29	1.5	0.72±1.36	0.61	
私費	380	6.34±3.95		1.01±1.88		4.38±3.52		0.59±1.33		3.06±2.10		0.72±1.53		4.43±3.16		0.75±1.59		
奨学金+私費	171	7.07±3.81		0.73±1.40		5.03±4.14		0.49±1.06		3.58±2.86		0.66±1.39		5.06±3.31		0.65±1.29		
その他	10	6.12±4.52		0.20±0.42		4.67±4.09		0.20±0.40		2.68±2.65		0.10±0.32		4.22±3.41		0.20±0.42		
専攻																		
文系	368	6.31±3.68	2.7	0.92±1.78	0.22	4.43±3.56	0.65	0.51±1.20	0.77	2.91±2.45	7.83**	0.61±1.38	1.73	4.54±3.11	0.4	0.70±1.54	0.44	
理系	291	6.80±3.93		0.89±1.55		4.66±3.75		0.59±1.25		3.21±2.16		0.80±1.56		4.70±3.30		0.75±1.39		
大学での身分																		
学部生(聴講生を含む)	303	6.03±3.62	8.35**	0.95±1.93	3.00	4.24±3.57	2.74	0.58±1.35	1.42	3.28±2.35	1.77	0.68±1.46	1.76	4.35±3.10	2.72	0.77±1.74	2.43	
修士(研究生を含む)	185	7.46±3.81		0.69±1.24		4.98±4.03		0.43±0.94		3.42±2.64		0.55±1.31		4.01±3.18		0.52±0.96		
博士	180	6.65±4.11		1.03±1.64		4.85±3.64		0.59±1.27		2.98±2.19		0.84±1.61		4.79±3.52		0.83±1.44		

注1) 各項目は無回答を除いて算出した結果を示している
注2) *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001

表6 生活ストレス度と領域別
ソーシャルサポートとの相関関係 (n=681)

ソーシャルサポート		p値
研究領域(9項目)	-0.1685	0.0000
人間関係領域(6項目)	-0.1436	0.0003
情緒領域(6項目)	-0.1419	0.0008
環境・文化領域(8項目)	-0.1291	0.0004

るということは無いので、友人関係を形成し維持するには、自ら人との接触機会を作らねばならない」とも述べていることから、「民間賃貸住宅」に住んでいる学生は自ら積極的に人間関係を築かない限り、サポートを得にくい状態にあると思われる。しかしながら、本研究の結果は、「民間賃貸住宅」に住んでいる学生は日本人と同じアパートに住むことによって、日本の文化・環境に馴染みやすい環境にあり、自ら努力し、または配偶者から、配偶者を通じて日本人や同国の友人から情緒的なサポートを得ているといえる。

なお、ソーシャルサポートと生活ストレス度との間に、弱い負の相関が見られたことから、中国人留学生は必要と感じたサポートが得られることにより、生活ストレスの軽減に繋がると考えられる。

V. 結語

1. 8割の学生が必要と感じ「得た」サポートは、「研究領域」、「環境・文化領域」に属し、本来の学業や現実生活に関するものであった。また、女性、あるいは親友のいる学生がいずれの領域においてもより多くのサポートを得た。
2. 2割の学生が「必要と感じたが得られなかった」サポートは、「研究領域」、「環境・文化領域」、「情緒領域」に属するものであった。特に、社会経験がなく、親友のいない、あるいは日本語能力が低い学生は「研究領域」のサポートはあまり得られなかった。
3. 中国人の友人がいずれの領域においても大きなサポート源となっていた。日本の友人も、「情緒領域」を除き大きなサポート源となっていた。
4. 留学生は必要と感じるサポートを得ることで、生活ストレスを軽減できる。

以上から、留学生に対し、「研究領域」でのサポートの強化、特に社会経験のない、親友のいない、日本語能力の低い学生に対する援助が重要である。

ただし、本研究で対象としたのは比較的留学生の多い大学の留学生であること、国立大学が多く含まれることなどから、留学生の少ない大学の場合などでは状況が変わってくる可能性も考えられる。

謝辞

本研究にご協力いただいた中国人留学生の皆様、ならびにフィールドを提供していただいた各大学の留学生担当部門の責任者及び協力者の皆様に心より感謝申し上げます。

文献

- 1) 井上孝代(2001)留学生の異文化間心理学：文化受容と援助の視点から。玉川大学出版部、東京、7-12.
- 2) 伊藤武彦、井上孝代(1998)全国高等教育機関の留学生相談の実態調査 第1報。留学生の中途退学に関する異文化間心理学的研究(井上孝代)。平成8年度・9年度科学研究費補助金(基盤研究C) 研究成果報告書、16-38.
- 3) 陳金娣、高田谷久美子(2008)留学資金別にみた在日中国人留学生の生活ストレスの特徴と対処行動。Campus Health, 45(2) 掲載予定
- 4) 大橋敏子(1995)外国人留学生のメンタルヘルス及びヘルスケアに関する研究。平成六年度文部省科学研究費補助金(奨励研究B)研究成果報告書
- 5) 朝倉隆司、陳利(1993)アジア人留学生の生活ストレスと健康に関する研究。東京学芸大学紀要5部門、45:97-103.
- 6) 嶋信宏(1990)ソーシャル・サポート研究の現状と臨床場面への応用。東京大学教育学部心理教育相談室紀要、12:63-72.
- 7) 宗像恒次(1991)社会心理モデルからみる健康と病気。行動科学と医療(長谷川浩、宗像恒次)。弘文堂、東京、7-79.
- 8) 江川緑(1994)在日留学生のメンタルヘルスの現状と課題。Health Sciences, 10(4):241-249.
- 9) 周玉慧(1993)在日中国系留学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み。社会心理学研究、8(3):235-245.
- 10) 周玉慧(1993)在日中国系留学生に対するソーシャル・サポートの次元-必要とするサポート、知覚されたサポート、実行されたサポートの間の関係-。社会心理学研究、9(2):105-113.
- 11) Richard L L(1983) Social Support and Psychological Disorder: A Review. Journal of Community Psychology, 11:3-21.
- 12) 嶋信宏(1992)大学生におけるソーシャルサポートの日常生活ストレスに対する効果。社会心理学研究、7(1):45-53.
- 13) 李芸敏、李永鑫、李惠民(2003)河南省大学生の社会支持に関する調査(中国語)。健康心理学雑誌、11(1):34-35.
- 14) 高井次郎(1989)在日外国人留学生の適応研究の総括。名古屋大学教育学部紀要、36:139-147.
- 15) 周玉慧(1995)受け取ったサポートと適応に関する因果モデルの検討-在日中国系留学生を対象として-。心理学研究、66(1):33-40.
- 16) 江淵一公(1991)留学生受け入れの政策と理念に関する一考察-主要国における政策動向の比較分析から-。大学論集 広島大学教育研究センター、20:33-68.
- 17) 横田雅弘、田中共子(1992)在日留学生のフレンドシップ・ネッ

陳 金娣, 他

トワーカー居住形態(留学生会館・寮・アパート)による比較一.
学生相談研究, 13(1):1-8.